

## 2. 全数把握対象感染症患者報告状況

### (1) 全数把握対象感染症の過去5年間の届出状況

	疾 患 名	2014年 (平成26年)	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)
二類	結核	153	149	156	147	143
三類	腸管出血性大腸菌感染症	11	10	17	13	11
	パラチフス					1
四類	A型肝炎	2	1	3		
	重症熱性血小板減少症候群	7	3	8	4	1
	つつが虫病	1	1	2	2	1
	デング熱	1		1		
	日本紅斑熱	13	6	6	10	4
	野兔病		1			
	ライム病			1		
	レジオネラ症	1	5	11	15	14
五類	アメーバ赤痢	7	5	4	3	3
	ウイルス性肝炎（E型、A型を除く）	1	1	1	2	2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		4	5	3	8
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く） <sup>1)</sup>					1
	急性脳炎	1	2	3	1	4
	クリプトスポリジウム症		1			
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1		1	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	1		3
	後天性免疫不全症候群	4	8	6	5	9
	ジアルジア症		1			
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1	2	2	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	7	4	6	9
	水痘（入院例）		1		2	6
	梅毒	3	2	11	14	30
	播種性クリプトコックス症		1			2
	破傷風	2		2	3	4
	百日咳 <sup>2)</sup>					31
風しん	2	1			3	
麻しん		1			1	

1) 平成30年5月1日（2018）より全数把握対象感染症へ指定された。

2) 平成30年1月1日（2018）より全数把握対象感染症へ指定された。

(2) 各疾病の届出状況

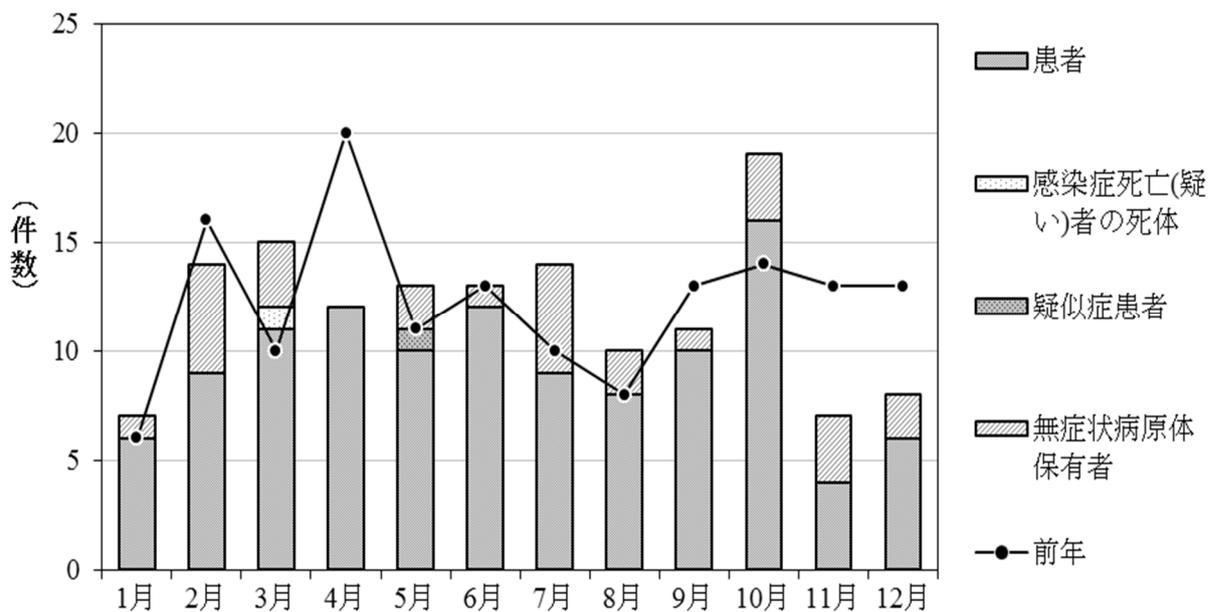
《一類感染症》

一類感染症の届出はなかった。

《二類感染症》

① 結核

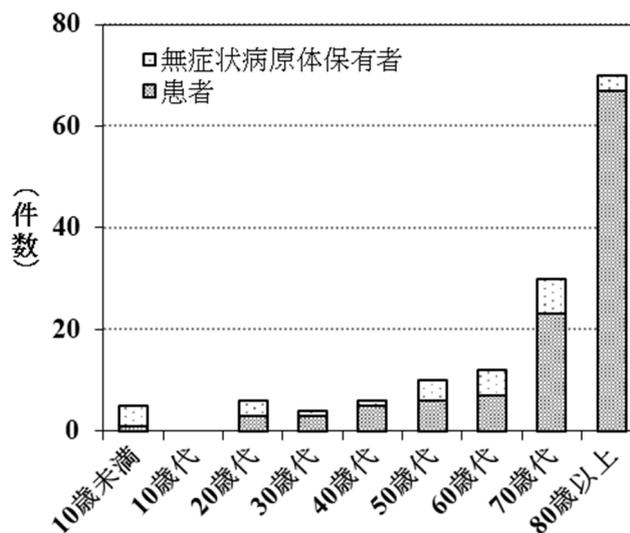
【結核の月別届出数】



【年齢・性別構成】

	男	女	計
10歳未満	3	2	5
10歳代	0	0	0
20歳代	3	3	6
30歳代	1	3	4
40歳代	3	3	6
50歳代	5	5	10
60歳代	8	4	12
70歳代	17	13	30
80歳以上	35	35	70
計	75	68	143

【年齢・症状別届出数】



2018年の年間届出数は143件であった。過去5年間の年間届出数は、毎年約150件前後と、ほぼ横ばいで推移している。

1月と11月が7件、12月が8件とやや少なかったものの、その他の月は10～19件で推移し、季節的な特徴はみられなかった。

症状別では、「患者」が114件（内訳：肺結核83件、その他の結核24件、肺結核及びその他の結核7件）と最も多く、「疑似症患者」は1件、「無症状病原体保有者」は28件であった。

年齢別にみると、70歳未満（43件）では各年齢層ともほぼ10件以下であったが、70歳代（30件）、80歳代（50件）、90歳以上（20件）と、70歳以上の届出が合計100件と全体の約70%を占めた。

性別では、男性75件、女性68件とやや男性が多かった。

年齢別に症状を比較した場合、20歳未満は「無症状病原体保有者」の割合が80%を占めたが、20歳以上については、すべての年齢で「患者」の割合が50%を超えていた。

職業別では、医療関係者や施設職員、会社員、学生など、集団感染のリスクが高い職業が見られることより、今後も広く感染予防啓発が必要であると考えられた。

### 《三類感染症》

#### ② 腸管出血性大腸菌感染症

診断月	性別	年齢	症状	型別	推定感染地域
6月	男	80歳代	腹痛、水溶性下痢、血便	O157 (VT1VT2)	国内
6月	男	30歳代	腹痛、水溶性下痢	O157 (VT1VT2)	国内
7月	女	10歳代	腹痛、水溶性下痢、血便、発熱	O157 (VT1VT2)	国内
7月	男	20歳代	腹痛、水溶性下痢、発熱	O103 (VT1)	国内
7月	女	10歳代	無症状病原体保有者	O157 (VT1VT2)	国内
7月	男	50歳代	無症状病原体保有者	O157 (VT1VT2)	国内
7月	女	40歳代	無症状病原体保有者	O157 (VT1VT2)	国内
7月	男	60歳代	腹痛、水溶性下痢、血便	O157 (VT2)	国内
8月	女	80歳代	水溶性下痢、血便	O157 (VT2)	国内
10月	男	60歳代	腹痛、水溶性下痢、血便、発熱	O157 (VT1VT2)	不明
12月	女	20歳代	無症状病原体保有者	O157 (VT2)	国内

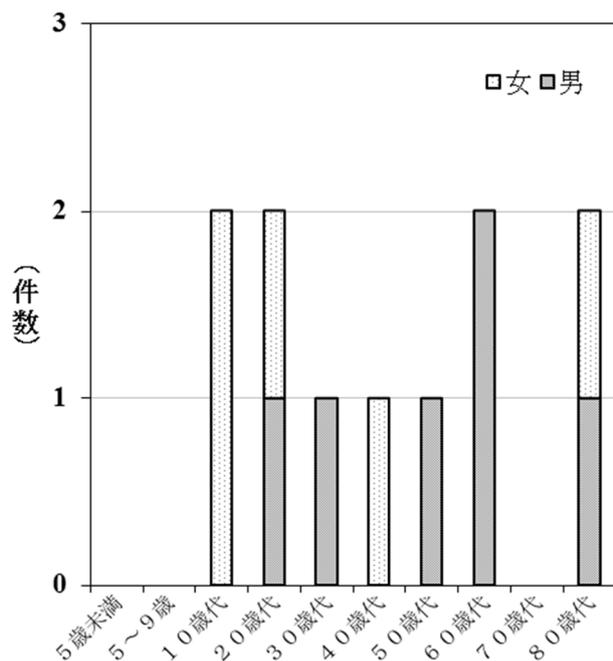
2018年の年間届出数は、前年（13件）より少ない11件であった。過去5年間の年間届出数は、毎年10件前後で推移している。

一般に本疾患は夏から秋に多いとされる。月別の届出数推移では、6～7月に8件と約7割の届出があった。

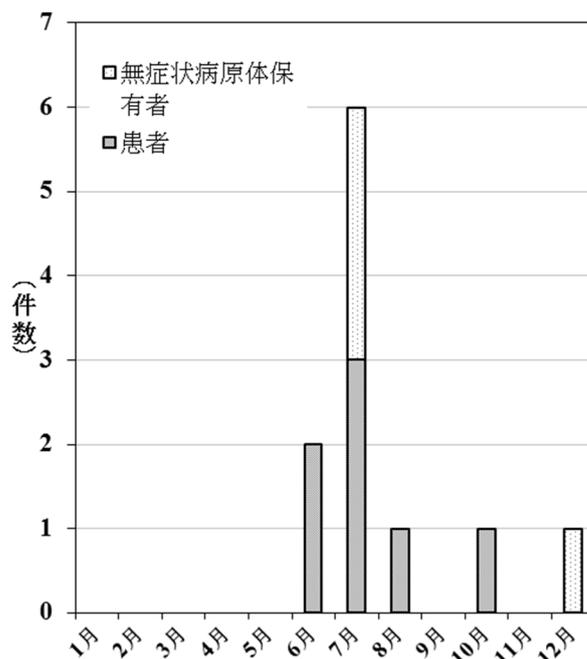
年齢別では、10歳代から80歳代まで幅広い年齢層から報告され、性別では、男性6件、女性5件とほぼ同数であった。

診断の類型では「患者」が7件、「無症状病原体保有者」4件と「患者」の割合が多く、症状は腹痛、水溶性下痢、血便、嘔吐など複数の症状を訴えていた。血清型別では、本疾患の多くを占めるO157が10件報告され、O103が1件報告された。

【年齢・性別届出数】



【月別・症状別届出数】



「患者」報告例の感染経路や感染源は、潜伏期間が2～14日と比較的長いこともあり原因の特定には至らなかったが、1件を除きすべて国内で感染したと推定された。また、「無症状病原体保有者」のほとんどは「患者」との接触者検診から報告され、家族内感染と推定された。

### ③ パラチフス

2018年の年間届出数は1件であった。過去5年間、県内での患者発生は報告されていない。国外での飲食物による経口感染と推定された。

診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
8月	男	20歳代	高熱、比較的除脈、脾腫、下痢	経口感染	国外

《四類感染症》

### ④ 重症熱性血小板減少症候群

診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
7月	男	80歳代	発熱、神経症状、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹、紫斑、刺し口	マダニ等からの感染	国内

2018年の年間届出数は1件であった。2013（平成25）年3月4日より四類全数把握対象感染症に指定されて以降、毎年報告されている。

届出月は7月と、マダニの活動時期と一致する春から秋と一致し、年齢及び性別は80歳代の男性であった。

感染経路は、狩猟による野外活動時にマダニに刺されたと推定された。

⑤ つつが虫病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
12月	男	70歳代	頭痛、発熱、刺し口、発疹	ツツガムシ等からの感染	国内

2018年の年間届出数は1件で、過去5年間では毎年1～2件報告されている。

届出月は患者発生報告が多いとされる冬から春先にあたる12月で、年齢及び性別は70歳代の男性で、県内で感染したと推定された。

⑥ 日本紅斑熱

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
4月	男	60歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
5月	男	70歳代	発熱、刺し口、発疹	マダニ等からの感染	国内
8月	男	80歳代	発熱、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
10月	男	80歳代	発熱、頭痛、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内

2018年の年間届出数は4件であった。過去5年間における年間届出数は2～13件と、年毎による差が大きい。

届出月は4～10月と、マダニの活動時期と一致する春から秋に集中した。年齢は60～80歳代、性別はすべて男性であった。

本疾患は、重症熱性血小板減少症候群やつつが虫病と同様に、例年畑や森林における野外作業中での感染が数多く報告されている。本年届出があった大半の例もレジャーや農作業等の野外作業においてマダニに刺咬されたと推定された。

⑦ レジオネラ症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	60歳代	意識障害、肺炎、多臓器不全、低ナトリウム血症	水系感染	国内
3月	男	60歳代	発熱、咳嗽、肺炎	不明	国内
3月	男	70歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	不明	国内
4月	男	70歳代	肺炎、肝機能障害	不明	国内
5月	男	80歳代	発熱、肺炎	水系感染	国内
6月	男	60歳代	発熱	不明	国内
6月	男	60歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、下痢、肺炎	水系感染	国内
6月	男	70歳代	発熱、下痢	水系感染	国内
7月	男	70歳代	発熱、肺炎	不明	国内
7月	女	80歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
7月	女	60歳代	発熱、呼吸困難、肺炎、頭痛	水系感染・塵埃感染	国内
8月	男	70歳代	発熱、呼吸困難、肺炎、頭痛、嘔気	水系感染	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
9月	男	50歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	不明	国内
9月	女	60歳代	発熱、咳嗽、下痢、肺炎	不明	国内

2018年の年間届出数は14件であった。過去の年間届出数の推移をみると、2014年以前は毎年1～3件の報告数で推移していたが、2015年以降増加傾向にある。

本疾患は6～9月に多く報告されている。年齢はすべて50歳以上で、性別は男性11件、女性3件であった。

病型は「肺炎型」が13件、「無症状病原体保有者」が1件であった。

推定感染経路は水系感染が5件、水系感染及び塵埃感染が1件、不明8件でいずれも国内で感染したと推定された。

#### 《五類感染症》

#### ⑧ アメーバ赤痢

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	50歳代	大腸粘膜異常所見	経口感染	国外
6月	男	30歳代	下痢、粘血便	不明	国内
8月	女	40歳代	腹痛、発熱、肝膿瘍	経口感染	国内

2018年の年間届出数は3件で、過去5年間では毎年3～7件報告されている。

年齢は30～50歳代、性別は男性2件、女性1件であった。病型は「腸管アメーバ症」が2件、「腸管外アメーバ症」が1件であった。推定感染経路は経口感染2件、不明1件、感染地域は国外1件、国内2件と推定された。

#### ⑨ ウイルス性肝炎（E型、A型を除く）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5月	男	20歳代	黄疸	同性間性的接触	国内
7月	女	10歳代	肝機能異常	不明	国内

2018年の年間届出数は2件で、過去5年間では毎年1～2件報告されている。

本疾患は5月と7月に1件ずつ届出があり、年齢及び性別は、20歳代の男性と10歳代の女性であった。病型はいずれも「B型肝炎」で、すべて国内で感染したと推定された。

#### ⑩ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染原因・経路	推定感染地域
1月	男	70歳代	敗血症	医療器具関連感染	国内
3月	男	90歳代	胆管炎	以前からの保菌	国内
4月	男	70歳代	肺炎	院内感染	国内
8月	女	70歳代	肺炎	不明	国内
9月	男	80歳代	敗血症、膿胸	以前からの保菌	国内
10月	女	80歳代	敗血症	医療器具関連感染	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染原因・経路	推定感染地域
11月	女	60歳代	胆嚢炎、胆管炎	以前からの保菌	国内
11月	男	70歳代	腹膜炎	手術部位感染	国内

2018年の年間届出数は8件であった。2014（平成26）年9月19日に五類全数把握対象感染症として指定されて以降最も多い報告数となった。

年齢はすべて60歳代以上、性別は男性5件、女性3件であった。感染経路は院内感染が1件、医療器具を介しての感染が2件、以前からの保菌が3件、手術部位感染1件、不明が1件、すべて国内で感染したと推定された。

#### ⑪ 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10月	男	0～4歳	弛緩性麻痺（両上肢）、髄液細胞数増加、発熱、嘔吐	飛沫・飛沫核感染	国内

本疾患は、2018（平成30）年5月1日より五類全数把握対象感染症に指定された。

2018年の年間届出数は1件で、年齢は4歳以下、性別は男性であった。飛沫・飛沫核感染、国内で感染したと推定され、病原体としてエンテロウイルスD68型が検出された。

#### ⑫ 急性脳炎

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	70歳代	発熱、意識障害	飛沫・飛沫核感染	国内
1月	男	30歳代	発熱、意識障害	飛沫・飛沫核感染	国内
10月	女	80歳代	発熱、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加	不明	国内
12月	女	0～4歳	発熱、痙攣、意識障害	飛沫・飛沫核感染	国内

2018年の年間届出数は4件で、過去5年間では一番多い届出数となった。

年齢は0歳～80歳代と幅広く、性別は男性2件、女性2件であった。

病原体は、インフルエンザウイルスB型が2件、インフルエンザウイルスA型が1件検出され、すべて国内で感染したと推定された。

#### ⑬ クロイツフェルト・ヤコブ病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7月	男	30歳代	小脳症状、精神・知能障害	不明	不明
12月	男	70歳代	進行性認知症、ミオクローヌス、錘体路症状、視覚異常、無動性無言状態、筋強剛	不明	不明

2018年の年間届出数は2件で、過去5年間では、2015年、2017年に各1件報告されている。

年齢及び性別は、30歳代と70歳代のいずれも男性で、病型は「ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー病（GSS）」1件、「古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）」1件であった。

感染経路及び地域は不明であった。

⑭ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	70歳代	ショック、肝不全、腎不全、軟部組織炎	左下腿蜂窩織炎より敗血症をきたしたものの	国内
4月	女	60歳代	ショック、急性呼吸窮迫症候群、DIC	不明	不明
4月	女	90歳代	ショック、腎不全、軟部組織炎	創傷感染	国内

2018年の年間届出数は3件で、過去5年間では一番多い届出数となった。

年齢は60歳代～90歳代で、性別は男性1名、女性2名であった。感染経路は創傷感染が2件、不明が1件、感染地域は国内2件、不明1件と推定された。

⑮ 後天性免疫不全症候群

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5月	女	70歳代	サイトメガロウイルス感染症	不明	国内
5月	男	40歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
5月	男	50歳代	ニューモシステイス肺炎	同性間性的接触	国内
5月	男	20歳代	ニューモシステイス肺炎	同性間性的接触	国内
6月	女	60歳代	カンジダ症、ニューモシステイス肺炎、HIV脳症、HIV消耗性症候群	不明	国内
7月	男	10歳代	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内
8月	男	20歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
8月	男	20歳代	ニューモシステイス肺炎	異性間性的接触	国内
10月	男	40歳代	ニューモシステイス肺炎、カポジ肉腫	異性間性的接触	国内

2018年の年間届出数は9件であった。過去5年間では毎年4～8件報告されている。

年齢は10～70歳代、性別は男性7件、女性2件で、病型は「患者」6件、「無症状病原体保有者」3件であった。

推定感染経路は、同性または異性間での性的接触が7件、不明2件で、すべて国内で感染したと推定された。

現在、保健所等を中心に利用者のプライバシーに配慮した無料相談・無料HIV検査が実施されている。

今後も発生報告数の多い20～50歳代を中心に、より積極的な普及啓発を推進し、HIV感染の早期発見・早期治療、感染拡大の抑制に努めることが重要と考えられる。

⑯ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10月	男	80歳代	発熱、ショック、菌血症、胸膜炎	飛沫・飛沫核感染	国内

2018年の年間届出数は1件で、過去5年間では毎年1～2件ずつ報告されている。

年齢及び性別は、80歳代の男性で、国内で感染したと推定された。

### ⑰ 侵襲性肺炎球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2月	男	80歳代	発熱、意識障害、肺炎	不明	国内
4月	女	80歳代	発熱	不明	国内
5月	女	80歳代	発熱、咳、全身倦怠感、菌血症	不明	国内
5月	男	60歳代	発熱	飛沫・飛沫核感染	国内
6月	男	70歳代	発熱	飛沫・飛沫核感染	国内
7月	女	60歳代	発熱、咳、全身倦怠感、肺炎、菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内
9月	男	50歳代	発熱、咳、全身倦怠感、意識障害、菌血症	不明	国内
9月	男	60歳代	発熱、全身倦怠感、肺炎、菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内
12月	女	30歳代	発熱、肺炎、菌血症	不明	国内

2018年の年間届出数は9件で、過去5年間では毎年4～7件報告されている。

年齢は30～80歳代と幅広いが、9件中7件は60歳代以上であり、高齢者を中心に発生している。性別は男性5件、女性4件であった。感染経路は、飛沫・飛沫核感染が4件、不明が5件であり、いずれも国内で感染したと推定された。

### ⑱ 水痘（入院例）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
4月	男	30歳代	発熱、発疹	不明	国内
4月	女	30歳代	発熱、発疹、肝炎	不明	国内
8月	男	80歳代	発疹	接触感染	国内
10月	男	40歳代	発熱、発疹	飛沫・飛沫核感染、 家族内感染	国内
11月	女	40歳代	発熱、発疹	不明	国内
12月	男	30歳代	発熱、発疹	不明	国内

2018年の年間届出数は6件で、2014（平成26）年9月19日より五類全数把握対象感染症に指定されて以降、2015年に1件、2017年に2件報告されている。本年が過去最高の届出数となった。

年齢及び性別は、30歳代が3件、40歳代が2件、80歳代が1件であり、性別は、男性が4件、女性が2件で、いずれも国内で感染したと推定された。

### ⑲ 梅毒

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2月	女	40歳代	硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹	異性間性的接触	国内
2月	女	20歳代	口唇の点状黒色斑	異性間性的接触	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3月	男	30歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
5月	男	30歳代	初期硬結、鼠径部リンパ節腫脹	性的接触	国内
5月	男	20歳代	初期硬結	異性間性的接触	国内
6月	男	60歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
6月	女	20歳代	初期硬結	異性間性的接触	国内
6月	男	20歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
7月	男	20歳代	梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹	不明	国内
7月	女	90歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
7月	女	80歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
7月	男	40歳代	無症状病原体保有者	性的接触	国内
8月	女	40歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
8月	男	20歳代	硬性下疳	異性間性的接触	国内
8月	女	90歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
8月	男	30歳代	初期硬結、硬性下疳	異性間性的接触	国内
9月	男	40歳代	硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹	異性間性的接触	国内
9月	男	80歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
9月	女	70歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
10月	男	40歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
10月	男	60歳代	神経症状	不明	国内
10月	女	20歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
11月	男	10歳代	初期硬結	不明	不明
11月	女	20歳代	梅毒性バラ疹、梅毒性乾癬	異性間性的接触	国内
11月	男	50歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
11月	男	80歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
11月	男	80歳代	無症状病原体保有者	性的接触	国内
12月	女	20歳代	鼠径部リンパ節腫脹、梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
12月	女	40歳代	初期硬結	異性間性的接触	国内
12月	男	30歳代	初期硬結、鼠径部リンパ節腫脹	不明	国内

2018年の年間届出数は30件であった。過去の年間届出数推移では、2016年以降大幅に増加している。

年齢別では、10歳代～90歳代まで報告があったが、20～40歳代が多く、性別では男性18件、女性12件と男性がやや多かった。

感染地域は、1件の不明を除き、国内で感染したと推定されている。

現在、我が国では若年層を中心に梅毒患者の報告数が5年で6倍近くに急増し（2013年1,228人→2018年7,001人）、大きな問題となっている。

後天性免疫不全症候群と同様に、発生報告の多い10～40歳代を中心に、積極的な感染予防啓発の推進が重要と考えられる。

⑳ 播種性クリプトコックス症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	80歳代	発熱	不明	国内
8月	女	80歳代	発熱、意識障害	不明	国内

2018年の年間届出数は2件であった。2014（平成26）年9月19日より五類全数把握対象感染症に指定された。過去5年間では2015年に1件報告されている。

年齢及び性別は、80歳代の男性1件、女性1件であった。感染経路は両件とも不明であるが、1件は免疫不全が原因と推定され、感染地域は国内と推定された。

㉑ 破傷風

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3月	女	70歳代	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害	創傷感染	国内
5月	女	80歳代	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、強直性痙攣	創傷感染	国内
7月	男	60歳代	開口障害、嚥下障害、発語障害	創傷感染	国内
8月	男	80歳代	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、痙攣	創傷感染	国内

2018年の年間届出数は4件で、過去5年間では届出のなかった2015年を除き、毎年2～4件報告されている。

年齢及び性別は60～80歳代の男性2件、女性2件で、感染経路は創傷感染、すべて国内で感染したと推定された。

㉒ 百日咳

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7月	女	4歳以下	持続する咳、夜間の咳き込み、チアノーゼ、白血球数増多	家族内感染	国内
7月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
7月	男	60歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
8月	女	40歳代	持続する咳	家族内感染	国内
8月	男	5～9歳	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
8月	女	4歳以下	持続する咳	家族内感染	国内
8月	女	5～9歳	持続する咳	不明	国内
8月	男	5～9歳	持続する咳	学校	国内
9月	男	5～9歳	持続する咳、夜間の咳き込み、スタックカート、ウープ	家族内感染	国内
9月	女	40歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内

診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
9月	男	4歳以下	持続する咳、夜間の咳き込み、スタッカート、ウーブ	家族内感染	国内
9月	男	5～9歳	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
9月	男	5～9歳	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
9月	女	40歳代	持続する咳	家族内感染	国内
9月	女	5～9歳	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
9月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
9月	女	10歳代	持続する咳	不明	国内
9月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
10月	男	5～9歳	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
10月	女	20歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、白血球数増多	不明	国内
10月	女	20歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	不明	国内
11月	女	10歳代	持続する咳	不明	国内
11月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦、ウーブ	家族内感染	国内
11月	男	40歳代	持続する咳	不明	国内
11月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
11月	男	5～9歳	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	家族内感染	国内
11月	女	30歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、スタッカート、白血球数増多	不明	国内
12月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、	不明	国内
12月	女	5～9歳	持続する咳、夜間の咳き込み、嘔吐	家族内感染	国内
12月	男	4歳以下	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦、スタッカート、ウーブ、白血球増多、肺炎	不明	国内
12月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦、スタッカート、ウーブ	不明	国内

百日咳はこれまで小児科定点把握疾患として報告されていたが、2018（平成30）年1月1日より、五類全数把握対象感染症に指定された。2018年の年間届出数は31件であった。

年齢は0～19歳が23件で、全体の74%を占めた。性別は、男性12件、女性19件と女性が多かった。感染経路は、家族内感染が17件、学校感染が1件、不明が13件で、すべて国内での感染と推定された。

### ㊸ 風しん

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
9月	女	30歳代	発熱、結膜充血、発疹、リンパ節腫脹	飛沫感染	国内
10月	男	30歳代	発熱、発疹	不明	国内
10月	女	40歳代	発熱	不明	不明

2018年の年間届出数は3件であり、3年ぶりに届出があった。

年齢及び性別は30歳代の男性及び女性が1件ずつ、40歳代の女性が1件であった。感染経路は飛沫感染が1件、不明2件であった。感染地域は1件を除き、国内で感染したと推定された。

3件のうちの1件は、遺伝子検査での検査診断例である。検出した風しんウイルスの遺伝子型は、国内で検出されている主要な遺伝子型である1Eであった。

風しんは、抗体価の低い女性が妊娠中に罹患すると、子供に難聴などの重い障害（先天性風しん症候群（CRS））が起こる可能性があるため、今後も迅速な発生報告、流行情報の提供を行っていききたい。

### ㊸ 麻しん

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
12月	男	30歳代	発熱、発疹	飛沫・飛沫核感染	国内

2018年の年間届出数は1件であり、3年ぶりに届出があった。

年齢及び性別は30歳代男性で、飛沫・飛沫核感染により、国内で感染したと推定される。患者周辺への感染拡大は見られなかった。

また、検出した麻しんウイルスの遺伝子型は、国内で検出されている主要な遺伝子型であるD8であった。

麻しんは感染力が非常に強く、飛沫感染により容易に感染が拡大することから、ワクチン接種による感染予防啓発が重要と考えられる。